

文部省編纂

小學農業書卷一

大日本圖書株式會社發行

K140.61  
|  
|

D3

177  
←

文部省編纂

文部省

小學農業書卷一

大日本圖書株式會社發行

明治  
40 年 4 月  
出版

## 緒言

- 一。本書は高等小學校生徒用のために本省に於て特に設けたる農業教科書編纂委員をして編纂せしめたるものなり。
- 二。本書は分ちて二巻とし、現行規則の高等小學校第三學年第四學年又は本年(三月)勅令第五十二號による高等小學校第一學年第二學年に一巻づつを配當す。
- 三。本書は大體に於て曩に編纂の小學校農業者教科書に準據し、尙本年(三月)文部省令第六號に定むる農業の教授時數によつて教材の種類・配置・分量等に改正を加へたり。
- 四。本書記載の教材は土地の情況に應じて適宜取捨するは勿論、特に必要なる事項に關しては別にその要領を筆記せしむるも妨なし。

明治四十年三月

文 部 省

## 目 録

第一課 農業……………一	第十三課 田植……………十四
第二課 作物……………二	第十四課 稻の株張……………十四
第三課 種子の良否……………二	第十五課 日光……………十五
第四課 選種……………三	第十六課 稻の植方の疎密……………十六
第五課 發芽の歩合……………四	第十七課 稻の植方の深淺……………十六
第六課 播種の時……………五	第十八課 雜草の害……………十七
第七課 播種の深淺……………六	第十九課 田の草取……………十九
第八課 整地の目的……………七	第二十課 害虫の驅除……………二十
第九課 整地用の農具……………七	第二十一課 稻の灌漑……………二十二
第十課 耕鋤の深淺……………十一	第二十二課 水源……………二十三
第十一課 施肥……………十一	第二十三課 洪水の防禦……………二十四
第十二課 稻……………十二	第二十四課 雞卵の孵化……………二十四

第一圖 農業の圖



第一課 農業

稻・麥・豆・菜・大根・牛・豚・鶏の類は食物の源にして、綿・麻・絹・羊毛の類は衣服の本となり、又松・杉・檜・竹の類は家屋の基となる。而してこれ等衣食住の源は農業の産出する所にして、農業盛ならざれば、商工業も榮ゆることあたはざるべし。これ農業の大切なる所以な

第二十五課	育雛……………	二十五
第二十六課	稻の收穫……………	二十六
第二十七課	母本の選擇……………	二十七
第二十八課	種子交換……………	二十七
第二十九課	麥の播種……………	二十八
第三十課	肌肥……………	二十九
第三十一課	肥料の性質……………	三十
第三十二課	麥の施肥……………	三十
第三十三課	果樹の剪定……………	三十一
第三十四課	果樹の整枝……………	三十三
第三十五課	森林の效用……………	三十三
第三十六課	米の調製……………	三十四
第三十七課	收穫物賣却……………	三十六

一、そのころむち  
二、粟



種子良好ならざれば、良き作物を生ずることなし。  
良好の種子は重くして大なるものなり。

第二課 作物

稻・麥・粟・大豆・甘藷・馬鈴薯・大  
根・桑・茶・煙草・梅・梨などは農家  
の栽培する主要なる植物に  
して、これを作物といふ。作  
物は人の需むる部分の殊に  
よく發育するものなり。

第三課 種子の良否

種子は作物の本源なり。

第三圖



種子胚及び胚乳圖  
大小種子より生ぜる苗の比較圖

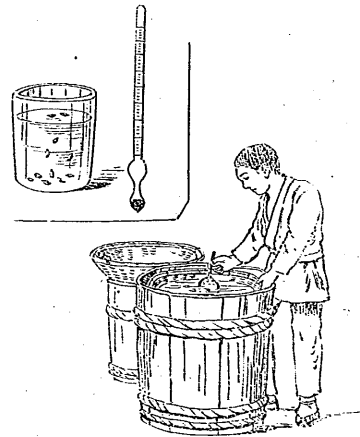
一、小種子より生ぜる苗  
二、大種子より生ぜる苗  
三、種子を横断して胚子と胚乳を示す

種子良好なれば、養  
分を含むこと多し。  
養分多ければ、芽はこ  
れに養はれて、盛に成  
長す。

第四課 選種

良好なる種子を選  
ぶに篩選と颯扇選と  
あり。大小を分つに  
は篩選を以てし、輕重  
を選ぶには颯扇選を  
以てす。これを兼ね

第四圖 鹽水選



用ふるときはその效殊に多し。

稻・麥などの選種には鹽水選法を用ふるが便なり。鹽水を作るには食鹽・苦鹽汁のいづれを用ふるもよろし。但し小麥・裸麥

のためには苦鹽汁を用ふべし。

第五課 發芽の歩合

買入れたる種子には、發芽すること少きものあり。發芽の歩合を知らんと欲せば、皿の上に並べ、絶えず

濕を與へて發芽せしむべし。

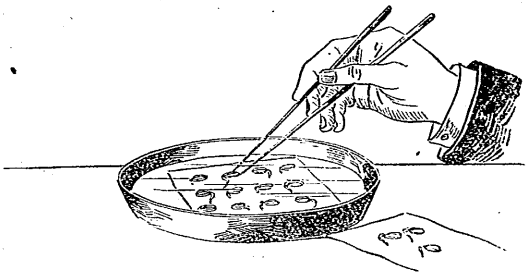
すでに發芽せばその數を數へ、用ひたる種子の全數にて除して、發芽の歩合を算出すべし。歩合の少きに隨ひて種子のいよいよ不良なるを證するなり。

第六課 播種の時

種子を播き下すには、適當なる溫度の時に於てすべし。溫度不適當なれば、發芽不良なるものなり。適當なる溫

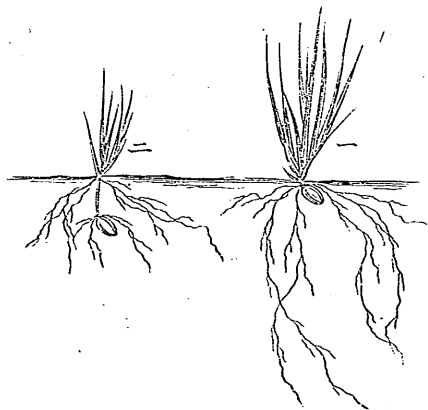
第五圖

種子發芽の比較



度は作物によりて異なり。

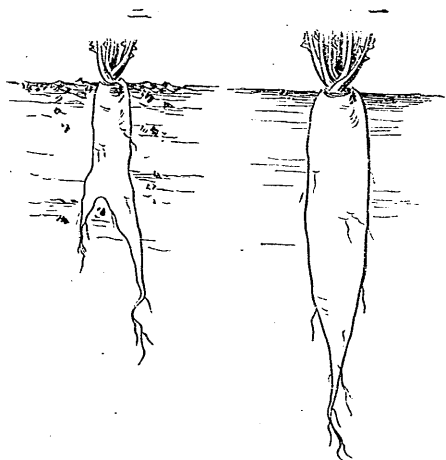
一、浅播  
二、深播  
播種の深淺



す。深播の害は殊に小粒に甚だし。

第七課 播種の深淺  
種子を播くには深きに過ぎざる様にすべし。深きに過ぐれば、芽の地上に出づること遅く、養分徒に多く費えて、成長よろしからず。  
播種の深さは種子によりて異なり。小粒に浅く、大粒に深きを常とす。

第七圖



一、整地したる場所の大根  
二、整地せざる場所の大根

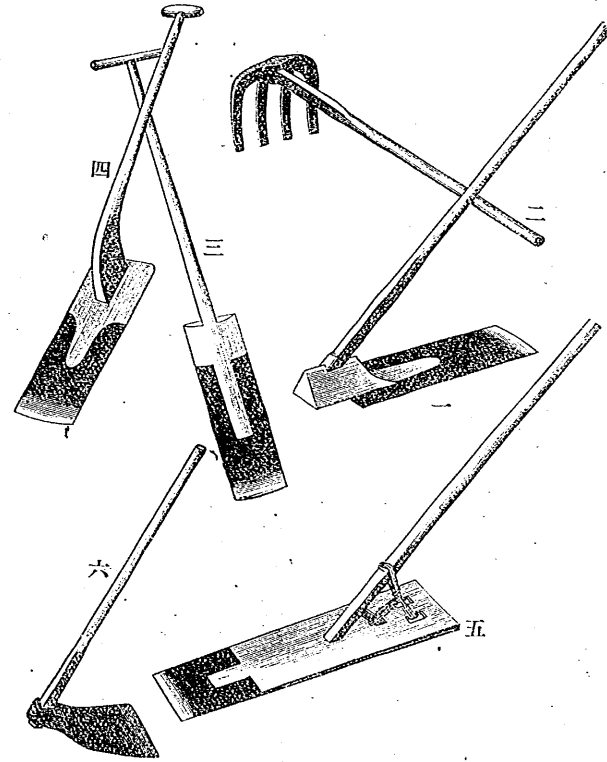
第八課 整地の目的

播種の前には整地をなして土を軟にすべし。土堅ければ根延び繁らず。

根は養分を取るの機關なり。根延び繁らざれば、莖及び葉もまた繁茂するを得ず。

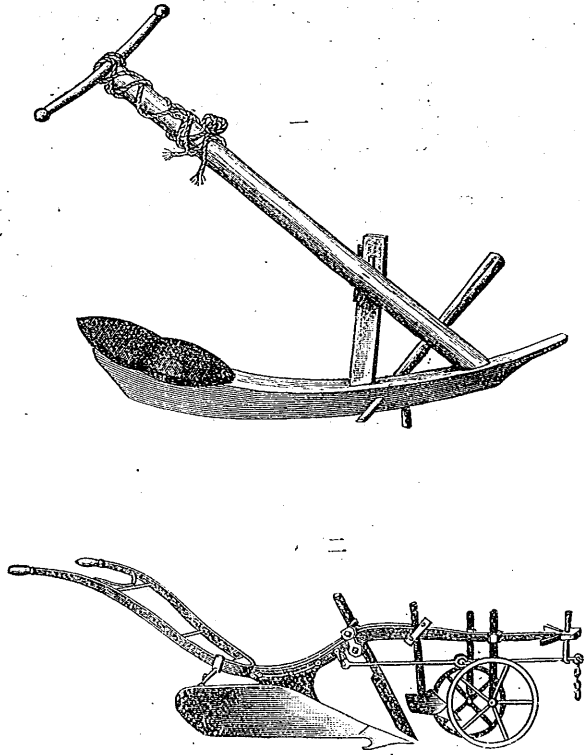
第九課 整地用の農具  
地を起すに用ふる農具中、最も普通なるは鋤にし

第 八 圖 農 具



一 鍬  
二 備中鍬  
三 京鋤  
四 江州鋤  
五 鑄鍬  
六 唐鍬

第 九 圖 農 具

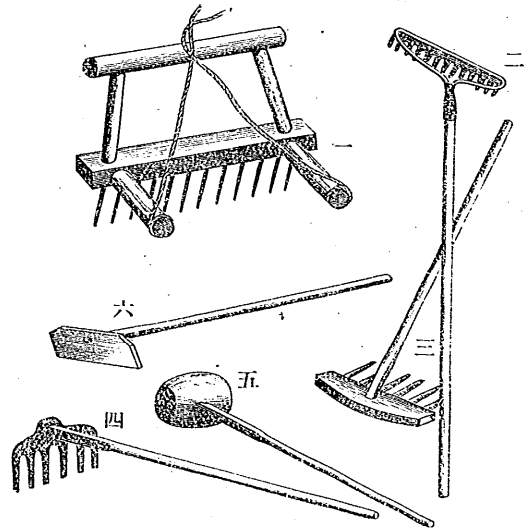


一 抱持立犁  
二 西洋犁



て鋤これに次ぐ。鋤には普通鋤・唐鋤・備中鋤あり。  
 鋤には江州鋤・京鋤・鑄鋤あり。牛馬の力を借りて、地を起すには犁を用ふ。犁は鋤・鋤に比して仕事捗取るものなり。土塊を碎

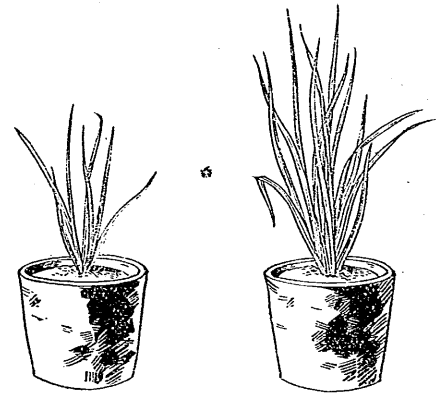
第十圖 農具



- 一、馬鋤
- 二、レキ
- 三、木ざらひ
- 四、金ざらひ
- 五、木斫
- 六、杖

鋤には普通鋤・唐鋤・備中鋤あり。

第十圖



有肥無肥の鉢植比較

第十一課 施肥

肥料は土壤養分の不足を補はんがために施すも

く農具には馬鋤・杖・レキ・木ざらひ・金ざらひ・木斫等あり。

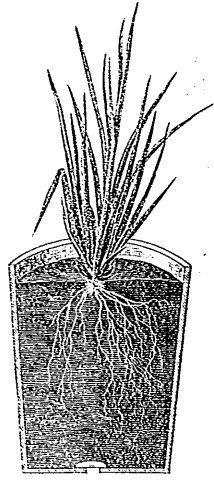
第十課 耕鋤の深淺

耕し方は丁寧なりとも、淺ければ、作物の根は深く延ぶることを得ず。根深く延び繁らざれば、養分を取ること少く、作物よく繁茂せざるなり。

のなり。これを施すときは、根よく延び繁りて、多

第二十圖

施肥せる作物の根葉



養分を吸収す。

根よく繁れば、莖及び葉またよく繁茂し、結實従ひて多

し。故に農家は肥料

を多く施して、收穫を多

せんことをつとむ。

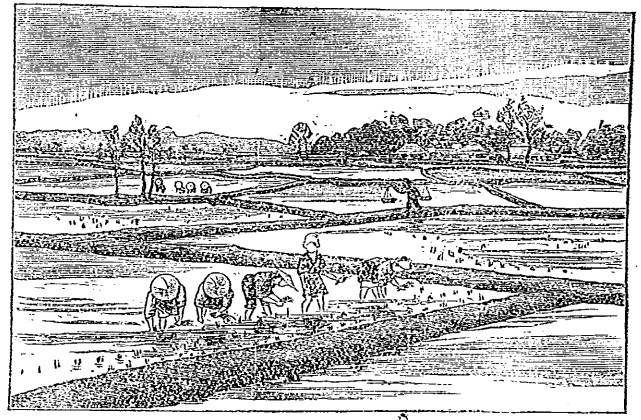
第三十圖

稻



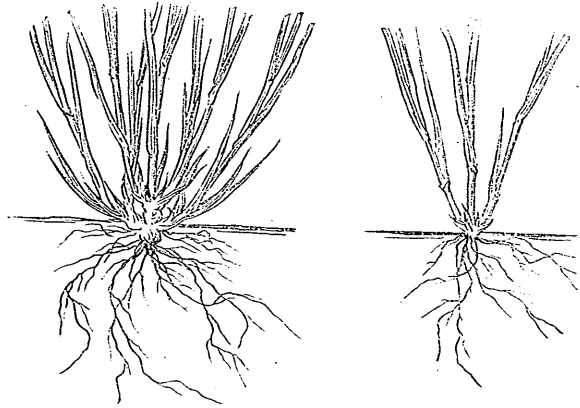
稻は我が國に於て最も大切なる作物なり。これを栽培するには灌漑を必要とす。

第四十圖 植田



春、苗代にて苗を作り、夏、本田に移植し、秋、實熟するを待ちて刈取るなり。稻には粳コシヒカリと糯カヌカとあり。その成熟の期によりて、早生・中生・晩生に分つ。品種によりて風土に適否あり、收穫に多寡あり、品質に良否あり。されば農家はよく選びて最も適當なるものを探り用ふべし。

第十圖 稻の株張

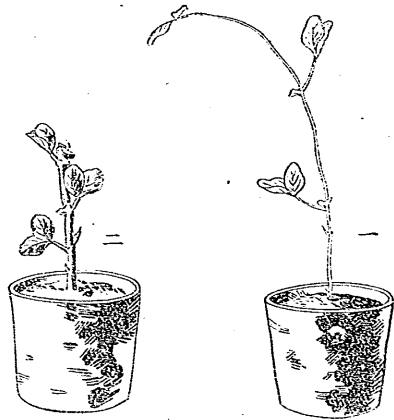


第十三課 田植  
 田植をなすには、先づ田を起して水を灌ぎ、更に馬鍬を以てよく耕し、これに肥料を施し置くなり。かくて穩にて暖き日を選び、苗を傷つけざる様丁寧に植付くべし。

第十四課 稻の株張

稻は地面に接する莖の所より枝を分ちて株張す。株張の多少は施肥量と品

第十六圖 暗所明所の植物育成比較



一、暗所成育 二、明所成育

種によりて異なり。

第十五課 日光

日光のよく當ることは作物の成育に最も大切なることなり。すべて植物は暗所に於ては色白く形細長くして質軟なるものなり。故に作物を堅く健康に育つるには日當をよければ厚播・厚植をなし、または田畑の周圍に樹木を植うるの不可なることは

勿論なり。

第十六課 稻の植方の疎密

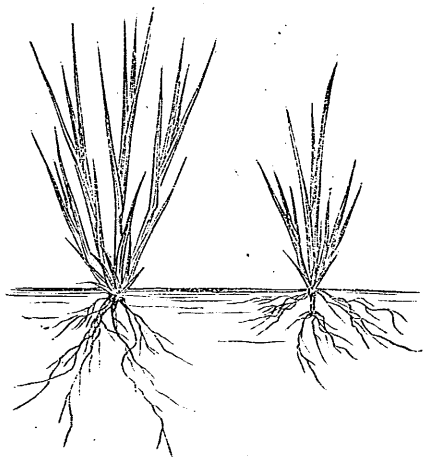
稻を植うるには株數に注意すべし。肥地は株張多ければ疎に植うべく、瘠地はこれに反すれば密に植うべし。

一株に採るべき苗數は殊に品種と關係あり。晚稻の如き株張多きものは少くし、早稻の如きこれに反するものは多くすべし。

第十七課 稻の植方の深淺

稻は深植を忌む。深植をなすときは、固有の根はよく發育せずして、別に根の生ずるを待ちて成長するが故に繁茂後るものなり。

第十六圖 植方の深淺



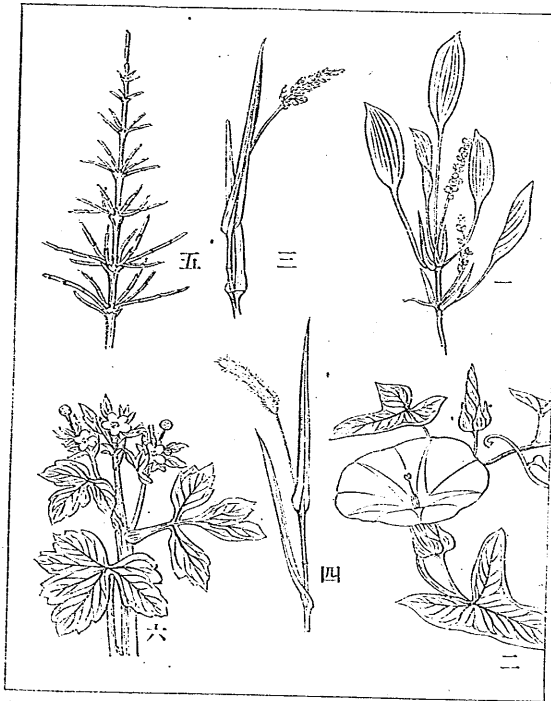
第十八課 雜草の害

雜草には、ひえ・ひるむし・えのころぐさ・たがらし・ひるがほ・すぎななどその種類甚だ多くして、いづれも作物の成育に害あり。

雜草は養分を奪ふのみならず、茂るときは日光を遮るの害もあるものなり。

雜草は強壯にして、いづれの地にもよく滋殖する

草 雜 圖 七 十 第



- 一、ひるむしろ
- 二、ひるがほ
- 三、ひえ
- 四、えのころぐさ
- 五、すぎな
- 六、たがらし

ものなれば、害を遅しうすること殊に大なり。

第十九課

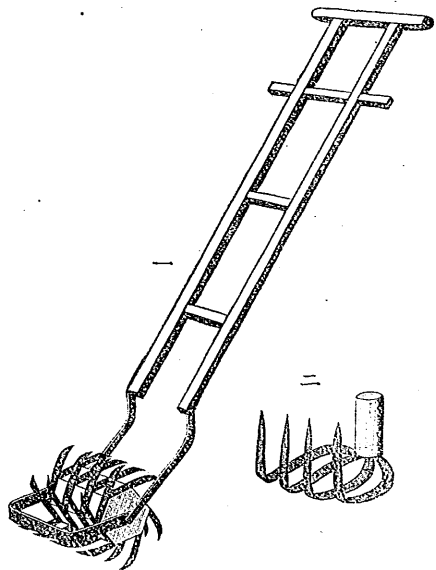
田の草取

田の草取は數回  
これを行ひ、一番草  
には雁爪・田打車な  
どを用ひ、二番草よ  
りは手を以てする  
を常とす。

第十八圖

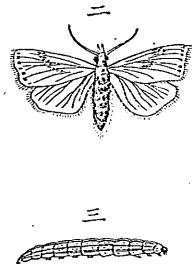
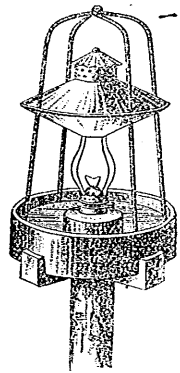
田の草取具

- 一、田打車
- 二、雁爪



草取はまた土を  
軟げて根の延び茂  
るを助くるの效あり。雁爪は深く起すに適すれど  
も、二番草以後に用ふるときは根を害するの虞あり。

一、誘蛾燈  
二、螟虫の蛾  
三、螟虫



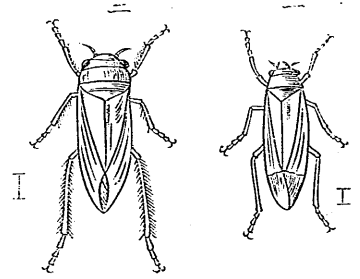
草取は暖なる晴天の日  
を選び、一番草は苗の根の  
着くを待ちて行ひ、止め草  
は穂孕前に於てし、その期  
の後れざる様に注意すべ  
し。

第二十課 害虫の驅除

害虫には螟虫・浮塵子・蚜  
虫等數多あり。  
螟虫の驅除には卵塊採  
集・枯莖拔及び白穂拔等の  
諸法あり。浮塵子の驅除  
には油殺法最も有效なり。

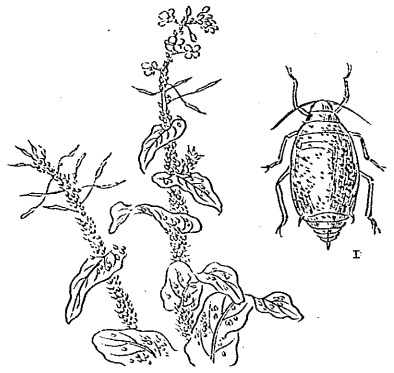
第十圖

一、つまぐろよこばひの雄  
二、つまぐろよこばひの雌



第十二圖 浮塵子の成虫

第十二圖 蚜虫



しかして點火誘殺法は亦しばしば兩者の驅除に用  
ひらる。  
蚜虫を驅除するには石油乳劑・除虫菊石鹼合劑

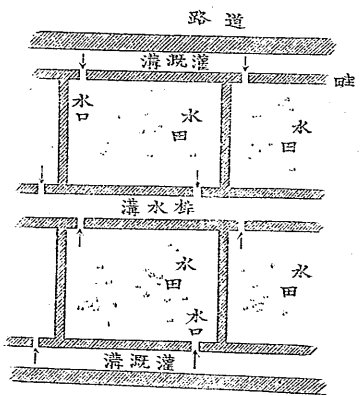
草石鹼合劑等を用ふるを可とす。

凡そ虫の害を豫防するには作物を強健に發育せしむべきは勿論、益虫益鳥を保護し、之によりて害虫の蕃殖を妨ぐるを肝要とす。

第二十一課 稻の灌溉

稻の灌溉は植付前より始め、實入の頃に至りて止む。その用水には河又は溜池の水などを用ひ、先づ灌溉溝を経て田面に引入るるを常とす。

第二十二圖 灌溉



用水は温暖なるを貴ぶ。冷なるときは稻よく繁茂することなし。冷なる水は暖めて用ふる様にすべし。

稻は成長と共に水を要すること益加はり、花時に於て最も多く、これより漸次に減じ、實入後は灌水却りて害あるに至る。

第二十二課 水源

雨雪の山に下りたるもの、岩間に貯へられて、遂に水源となる。故に雨雪少ければ水源乏し。

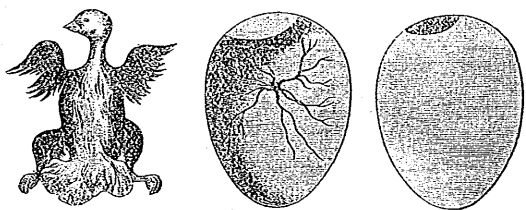
裸山に於ては雨水速に流れ去る。故に水源を涵養して河川の水を多くせんと欲せば、山に植林するをよしとす。

我が國に於ては暴雨多く、霖雨も屢あるが故に洪水の虞少からず。就中土砂多く山より流れ來りて河床高くなりたる地方にこの虞最も多し。かく土砂の流れ去るを扞止せんには、森林を仕立つるをよしとす。森林なければ土砂崩れ易きが故なり。

第二十四課 雞卵の孵化

雞卵を孵化せしむるには母雞に抱かしむべし。然るときはその體温によりて胚は次第に發育して雛となり、二十一日目頃には孵化して出づるなり。又母雞の代に人工孵化器を用ふることあり。

第二十三圖 雞卵の孵化



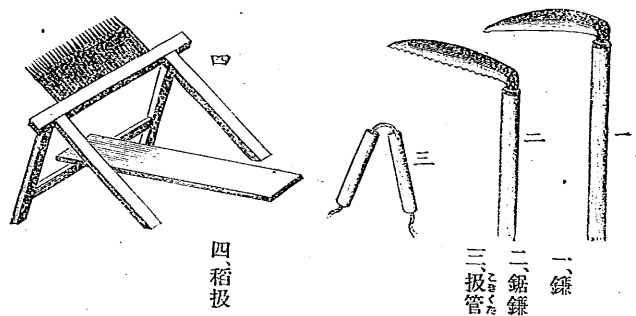
孵化用の卵は成るべく新しきを選ぶを肝要とす。これを貯ふるには動搖せざる様極めて丁寧にするべし。二週間以上を経たるものは用ふべからず。

第二十五課 育雛

雛には最初卵の煮たるものまたは焼きたるものを與へ、數日後に至りて穀類、菜類、虫類などを以て養ふべし。凡そ雛の時は過食の患あるものゆゑ、食餌は少量づつ一日數回に與ふるをよしとす。



第二十四圖 稻の收穫具



籾は寒濕の害に罹り易きものなれば、懇にこれを保護すべし。また運動を必要とするものなれば、母籾につけて戸外に遊ばしむることを怠るべからず。

第二十六課 稻の收穫

稻はその穂黄色となり、實硬くならば速に刈取るべし。時期過ぐれば米質を損し、收量もまた減ずるものなり。稻を刈るには鋭き鎌を用ふ

べし。刈取らば稻架に掛け、若しくは田面に臥せてよく干すべし。かくて藁十分に乾かば、粃を抜き落すべし。

第二十七課 母本の選擇

種子を採るにはまづよき母本を選ばざるべからず。良き母本は品種の特徴を十分に備へ居るものなり。良き母本を選ぶの必要なるは、良き母本よりは良き作物の生ずればなり。もし一圃の内に悪しき母本交り居らば、種子次第に不良となるの虞あり。

第二十八課 種子交換

作物によりては、惡變して戯生を生ずることあり。また同じ地に久しく作るがために、地に厭きて勢力

衰ふることあり。かくの如き場合には種子の交換を行ふをよしとす。

悪變を防ぐには母本を選択するは勿論、時には種子を本場に仰ぐべし。地に厭くを防ぐには、氣候やや寒く、土地やや劣れる所などより種子を探るべし。氣候甚だしく異なりたる所より採りたる種子は、不良の結果を生ずることあり。かくの如き場合には、母本の選擇によりて、これを風土に馴すことを試みるべし。

第二十九課 麥の播種

麥を栽培するには平作と畦作との別あり。畦作は濕氣多き地に適し、平作は乾燥せる地に適す。

圖五十二第

一、畦作  
二、平作

麥の種子を播くには摘播と條播との別あり。何れによるも厚薄なき様に注意するを肝要とす。

第三十課 肌肥

種子は肥料に混じて播くことあり。かくして施す肥料を肌肥といふ。凡そ初生の苗は速に成長せしむべきものなれば、これに吸収し易き養分を給するの要あり。肌肥を施すはこの目的に出づる

ものなり。  
肌肥は效用多きものなれども、種子に直接するときは害あるものなれば、敷肥の法によりてこれを避く。

第三十一課 肥料の性質

肥料には速効肥料と遅効肥料との別あり。人糞・硫酸・アンモニア等は前者に屬し、堆肥・糠・骨粉等は後者に屬す。

速効肥料は主として成長期の短き作物に適し、遅効肥料は成長期の長きものに用ふるを利とす。

第三十二課 麥の施肥

麥の播種には基肥として多く遅効肥料を用ひ、補

肥として速効肥料を數回に分ち施す。基肥には肌

肥として速効肥料を加へ用ふるを常とす。

凡そ麥の肥料は春時成長の最も速なる時期に效用ある様に施し、また成熟に害なき様注意するを肝要とす。

第三十三課

果樹の剪定

果樹は多少過度の成長に陥り易きものゆゑ、この成

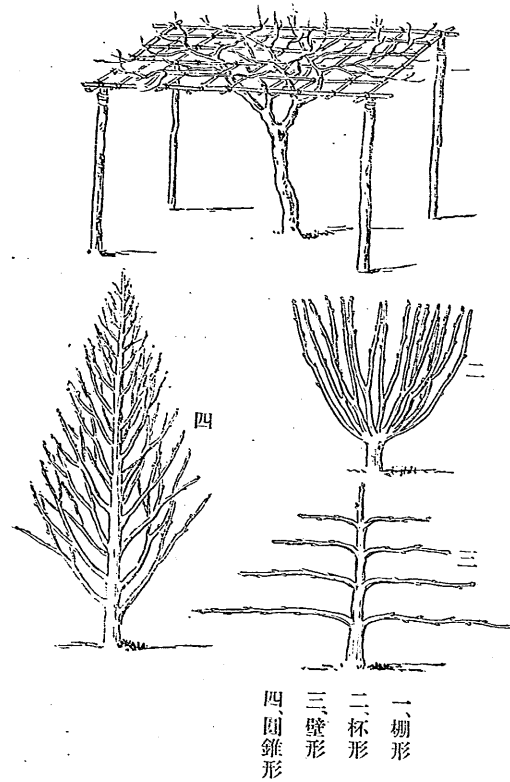
第二十六圖 果樹の剪定



長を抑ふるが爲に剪定を行ふを常とす。

果樹の整枝

圖七十二第



第三十四課 果樹の整枝

果樹は剪定によりて整枝するを常とす。整枝の方式は棚形を以て例とすべし。

この外壁形・杯形・圓錐形等あり。適當に整枝を行へば、採果・驅虫・剪定等に便なるのみならず、庭園などに於て美觀を呈するものなり。

第三十五課 森林の效用

森林には左の效用あり。

- 一、用材・薪炭を産す。
- 二、水源を涵養す。
- 三、土砂を扞止す。
- 四、洪水を防禦す。

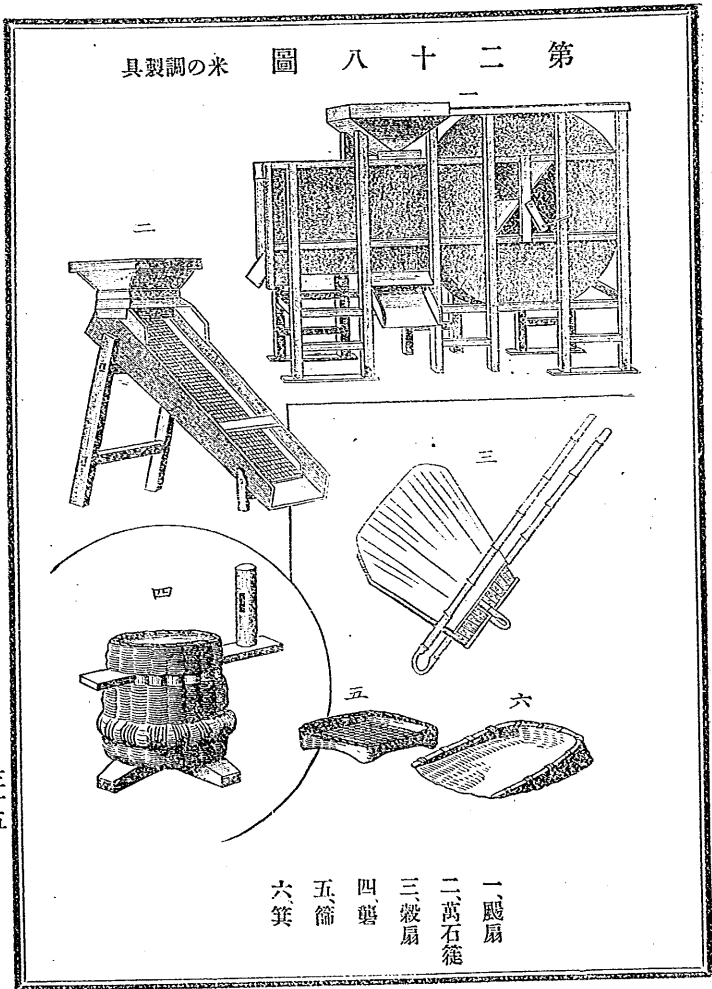
- 五、有益なる鳥類・菌類・樹脂等の副産物を生ず。
- 六、風致を美にす。
- 七、氣候を和く。
- 八、雨量を増加す。
- 九、風害を防ぐ。

森林にはかくの如く效用多きものなれば、力めてこれを保護して濫伐を禁ぜざるべからず。

第三十六課 米の調製

扱き落したる粃はよく乾燥して後礱にて摺り、颯扇等にて粃殻を去り、篩萬石筵にてよく調製すべし。粃の干し方不十分なるときは、粃摺困難にして、碎米・傷米を生ずるのみならず、米質不良となるなり。

第 二 十 八 圖 米の調製の具



K140.61-1-1

第三十七課 收穫物の賣却

農家は收穫の多きを求むること勿論なれども、品質にも注意し、調製にも力むるを肝要とす。品質よく、調製丁寧なるものは價貴ければなり。

かつ同一の品物にても、時によりて價に高下あるものなれば、常に物價の變動に注意し、最も高價なる時に賣る様心掛くるを肝要とす。

明治四十年七月廿九日印刷  
 明治四十年七月三十日發行

小學農業書附  
 定價 卷一金五錢五厘  
 價 卷二金五錢



著作權者 文 部 省

發行兼印刷者 大日本圖書株式會社  
東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地

右代表者 專務取締役 宮川保全

發賣所

東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地  
**大日本圖書株式會社**  
 大阪市東區北久太郎町四丁目十七番屋敷  
**大日本圖書株式會社支社**  
 各府縣下特約販賣所

